



# 館山市議会議員 森 正一 活動報告(第26号)

発行日：平成29年10月23日  
 発行者：もり正一 後援会(討議資料)  
 連絡先：館山市八幡277-19  
 TEL：090-2652-3218  
 ホームページ：http://www.awanew.com

## 【プロフィール】

- ・昭和42年5月17日生まれ、50歳
- ・北条小、三中、安房高、東北大学工学部卒
- ・館山市議会議員、現在2期7年目
- ・文教民生委員会委員長
- ・たてやま21・緑風会会派代表
- ・北条FC代表、館山市サッカー協会監事

## はじめに

平成29年第3回定例会が8月31日から9月27日までの会期で開催され、行政一般質問では「子育て支援」、「第三中学校の耐震化」、「健康増進・健康寿命の延伸」、「歩行者の交通安全対策」の4項目について、補正予算質疑では「新学校給食センター施設整備における、PFI導入可能性調査業務委託」について質問をしました。平成28年度一般会計決算、10月10日～12日の日程で実施した文教民生委員会の行政視察などとあわせてご報告いたします。

## 行政一般質問における質問・回答要旨・所感

### 質問1

#### 子育て支援について

- ①今年度より開始した北条幼稚園の預かり保育の状況について。
- ②市内保育所等における待機児童の状況について。
- ③市で実施している、子育て世帯に対する各種支援制度について。

### 回答1

- ①36名の申込みがあり、「朝7時半から夕方6時まで預けられるので、働きやすい」、「仕事時間を変えず、北条学区の園に預けられるので助かる」など、ご好評を頂いている。
- ②平成29年4月1日時点では、待機児童は発生していない。
- ③「“元気な広場”における各種子育て支援事業」、「母子の健康づくりに向けた各種健康診査」、「母子健康手帳アプリ」、「障がいや発育・発達に関する療育・発達支援」、「病児・病後児保育」、「公設学童クラブ」、「子ども医療費の助成」、「遠距離通学支援」、「奨学資金の貸付」など、様々な子育て支援事業を行っている。

### 所感

北条幼稚園で預かり保育を利用されている保護者の方から、「子育てと仕事の両立ができて、とても助かっている」との声を聞いており、他の園での実施について尋ねたところ、「今年度の状況を踏まえ、検討していく」とのことでした。本事業は市の財政負担をほとんどかけずにできることから、他の園での実施についても、継続して要望していきたいと思えます。

また、4月1日時点での待機児童数はゼロでしたが、10月1日現在、17人の待機児童がいます。この他に、希望する園の空き待ちが8名、育休を延長して申請を取り下げたケースなどが3名いて、実際には待機児童なのにカウントされない「隠れ待機児童」を合わせると、28名が入園できていません。このような「隠れ待機児童」の存在があり、その実態の把握も必要です。

一昔前は、父親が外で働き、母親が子育てに専念できる時代でしたが、社会情勢の変化に伴い、共働き世帯やひとり親家庭の増加などにより、働きながら子育てしないと、生計を保てない時代になってきています。市は様々な子育て支援を行っていますが、子育て中の保護者からは、更なる子育て支援の充実を求める声が出ています。厳しい財政状況ではありますが、みんなで知恵を絞り、先進事例や国県の補助メニューを研究し、更なる支援の充実を強く要望しました。



## 質問2

第三中学校の耐震化に関して  
①耐震化の検討の進捗状況について。  
②有利な財源確保について。

## 回答2

①有利な財源確保に、引き続き全力で取り組んでいるが、耐震改修なのか、それとも建て替えるのか、結論には至っていない。  
②有利な財源確保については、平成29年度中に目途を立てられるよう、鋭意努力している。

## 所感

これまで同様、有利な財源確保に努めている最中で、耐震改修にするのか、それとも、建て替えを行うのか、未だに結論に至っておらず、有利な財源(文部科学省以外の補助金)の確保についても、「平成29年度中に目途を立てられるよう、鋭意努力している」ということで全く進展がありませんでした。

大地震発生時に生徒や職員の安全を確保するために、そして、私たち地域住民の避難所として使用できるよう、学校施設の耐震化はいつまでも先延ばしのできない問題です。今年度中に有利な財源の確保が叶わない場合には、通常の文科省補助による建て替えを行うことを、引き続き強く求めてまいります。



## 質問3

健康増進・健康寿命の延伸について

①市が行っている健康増進、健康寿命の延伸に向けた取り組みの成果と今後の予定について。  
②特定健診、各種がん検診の受診状況について、また、受診率向上への取り組みとその成果について。

## 回答3

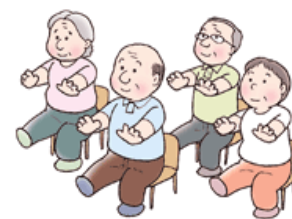
①「ラジオ体操」の普及、「健康教室」や「知って得する健康塾」、「糖尿病予防教室」の開催、介護予防のための体操教室を中心とした「サロン(体操教室)」や「さわやか健康麻雀」の立ち上げ支援、「たてやま健幸ポイント」事業や「健幸サロン」の設置など、様々な取り組みを行っている。昨年度は「健康教室」に延べ2,303名が参加、「サロン(体操教室)」は20地区で活動しており、市内100ヶ所を目標。市民一人一人が健康を自分の事として捉え、自ら気づき、考え、行動につなげることが重要であり、今後は、そのためのきっかけづくり、定着のための環境づくりを中心に取り組んでいく。

②平成27年度の特定健診の受診率は34.6%で、健診が開始された平成20年度と比較して8.5ポイント、前年度と比較して2.0ポイント向上している。また、平成28年度のがん検診の受診率は、胃がん検診が11.6%で最低、結核・肺がん検診の32.6%が最高、その他は20%前後。平成28年度の各種がん検診で、がんが発見された方は合計13名であった。

受診率向上の取り組みとしては、総合検診については、土日の検診を増やしたり、新規加入者や受けそびれた方のために11月に特定健診を5日間実施している。大腸がん検診では夜間の検体回収を行い、昨年度は452名が受診している。また、総合検診については、3市1町でポスターを作成しての周知、区長会等に保健師が出向いての検診のPR、電話勧奨や公用車による広報、未受診者への家庭訪問等の実施、生活習慣病の重症疾患を発症することが多い60歳代の検診未受診者に対しては、文書での通知や電話・家庭訪問による受診勧奨を行い、平成28年度は、718名中



ラジオ体操



体操教室



さわやか健康麻雀

187名が受診につながった。その他、乳幼児健診の際に若い年代層へ乳がん・子宮がん検診の受診勧奨をしたり、小中学生の生活習慣病予防に関する授業の際に保護者へのチラシを配布したり、あらゆる機会を通して啓発している。また、胃がん検診では、バリウムによるエックス線検査が受診者の高齢化により減少傾向となっており、試験的に胃がんリスク検診(ABC検診)を実施したところ、エックス線検査では発見できないがんが発見できた(2名)など、検診の有効性が得られた。今後、検診後のフォロー体制の整備などの課題を検討することが必要である。

検診は早期発見や早期治療につながるだけでなく、医療費削減の効果につながるものと考えているので、今後は、受診行動につながる受診勧奨方法も検討しながら、市民が受診しやすい検診を目指して、引き続き受診率の向上を図っていく。

## 所感

全国の他の自治体と同様に館山市においても、今後ますます進展する高齢化により、医療・介護費が膨らみ、引き続き厳しい財政状況が見込まれており、市民の健康増進・健康寿命の延伸が極めて重要課題となっています。私たち市民一人ひとりが、健康を維持するために日頃から適度な運動や健康的な食習慣を心がけること、そして、特定健診や各種がん検診などをきちんと受診し、早期発見・早期治療によって重症化を防ぐことが重要であり、行政としても、市民の健康増進につながる様々なサービスや情報提供、各種検診を受けやすくするような仕組みづくりなど、ソフト面の充実が急務です。また、特定健診や各種がん検診で精密検査や保健指導の対象となった方へのフォローなど、不十分なところもあるように思われます。

市民の生活の質の向上、医療・介護費の抑制に向けて、引き続きこの問題について様々な要望・提案をしてまいります。



## 質問4

歩行者の交通安全対策について  
①歩行者を交通事故から守るための安全対策として、現在、館山市が行っている事業について。

②市役所前にある市道1008号線(下の2枚の写真)は、北条小学校の児童および第三中学校の生徒が下校時に利用しているが、幅員が狭く、非常に危険な状態である(ブロックの上を歩いている児童が多く見られる)。改善しなくてはならないと思うがどうか？

## 回答4

①交通指導車による巡回、交通指導員による通学路での通学指導、速度規制区域「ゾーン30」の設定、「通学路交通安全プログラム」の実施、要望を受けた危険箇所の整備、ガードパイプ・車線分離標による歩道と車道との分離、第三中学校前の歩道の拡幅工事、市内全域にけるガードレールの設置、区画線の標示や路面上に注意喚起を促す舗装等を行っている。

②学校としては、職員が児童と一緒に歩きながら注意喚起をしており、市としてはこのような状況を改善するために、市道1008号線における歩行者の通行の確保に併せ、市役所北側の市道1001号線の市道拡幅及び歩道の新設についても、現在、取り組んでいるところである。



北条小児童の下校時の様子

## 所感

市役所前の市道では、過去に児童が車と接触する事故が発生しており、歩行者の安全確保は急務です。第三中学校グラウンドの角から北条病院のT字路までの区間の一方通行を解除し、市役所前の道路の通行を制限することなどを提案しましたが、不可能とのことでした。市道1001号線の改良は用地買収の問題があり、全く目途がたっていません。1日も早く安全が確保されるよう強く要望してまいります。

## 補正予算質疑

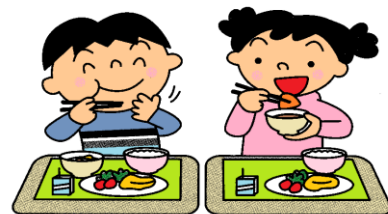
【Q1】給食センター施設整備事業における、PFI導入可能性調査委託の内容について。

【A1】今回の調査委託は、事業方式や事業期間、食数変動や物価上昇に関するリスクなどの検討、財政負担削減効果(VFM)の算定、民間事業者の参入可能性調査などを実施するもので、調査期間は今年度末までの予定。

【Q2】設計完了後にPFIを導入した事例はあるのか。また、民間参入の可能性は下がらないか？

【A2】給食センターでの事例は無いが、少年自然の家や美術館で設計後にPFIを導入した事例はある。また、民間事業者の参入の可能性については、事前に行ったヒアリングにおいて、可能性があることが確認できていることから、調査を実施し、その結果を踏まえ、PFIの導入を検討していく。

【所感】市にとってのメリットは、初期投資費用の削減と財政負担の平準化、施設整備から運営にわたる財政負担削減効果などがあげられます。財政状況の厳しい館山市にとって、PFIの導入により少しでも財政負担を削減し、安心・安全で美味しい給食を児童・生徒たちに提供できるのであれば、前向きに進めていくべきだと思います。



## 平成28年度決算

一般会計	歳入	198億3521万円	歳出	190億5775万円
特別会計	歳入	146億6683万円	歳出	141億6637万円
市債残高		約231億6千万円（市民一人当たり約49万円の借金）		

平成28年度各会計決算が、本会議最終日に承認されました。財政構造の弾力性を示す経常収支比率(自治体のエンゲル係数)は、前年度より3.4%悪化して98.2%となり、四街道市の99.7%に次いで県内ワースト2位でした(県内平均90.9%)。この比率が100%に近いほど、新たな事業に対応する余裕が少なくなります。平成22年以降、上昇が続いており、税収の増加が見込まれない現状では、扶助費の増加に歯止めをかけることが急務です。経常収支比率は厳しい数字ですが、財政健全化判断比率(「地方公共団体の健全化に関する法律」による)、下水道会計における資金不足比率は、健全化基準をクリアしており、「健全な数値である」との監査委員による審査結果が出ています。また、市債残高は約232億円ですが、このうちの約155億円(約67%)は交付税措置(国から補助)されるため、実質的な市の負債額は77億円程度になります。

## 平成29年度 文教民生委員会行政視察

10月10日から12日までの3日間の日程で、文教民生委員会の行政視察で長野県に行きました。初日の午後は松本市役所で、『自殺予防対策』『松本ヘルス・ラボ(健康増進)』について、2日目の午前中は茅野市で『福祉21ビーナスプラン』『高齢者保健福祉計画』について説明を受け、午後からは諏訪市で『健康増進施設 すわっこランド』について、最終日は岡谷市で、『岡谷小学校の耐震・大規模改修事例』を現地視察してきました。どの視察先も、現在館山市の抱えている諸問題に対して先進的に取り組み、大きな成果を挙げており、今回の視察で得たものを館山市のために活かしていきたいと考えています。また、委員会として視察報告書を作成するので、出来上がり次第ホームページに掲載します。是非ご覧になってください。

### おわりに

今回も報告書の作成が遅くなり、配り始めが議会終了後3週間以上も過ぎてしまい、深く反省しているところです。次回からはもっとスピード感を持ってやれればと思っています。また、今回初めて常任委員会の委員長を仰せつかり、委員会の運営や議会報告会・視察の準備等を経験し、委員長の責任の大きさを実感し始めたところです。これからも皆様のご意見・ご要望を市政に反映してまいりますので、どのようなことでも遠慮なくお申し付けください。